

第1回 道の駅アリストぬまくま あり方懇談会
次第

日時：令和6年7月10日(水)

14:00～16:00

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 開会挨拶 | 14:00～14:05 |
| 2. 参加者による挨拶 | 14:05～14:20 |
| 3. 懇談会の目的と位置づけについて | 14:20～14:40 |
| 4. 道の駅事業の考え方について | 14:40～14:55 |
| 5. 道の駅アリストぬまくまの現状 | 14:55～15:10 |
| 6. 参加者による意見交換 | 15:10～15:55 |
| 7. 閉会宣言 | 15:55～16:00 |

Confidential

第1回 道の駅アリストぬまくま あり方懇談会 ディスカッションペーパー

株式会社船井総合研究所

2024年7月10日（水）

目次

1. 開会挨拶
2. 参加者による挨拶（自己紹介）
3. 懇談会の目的と位置づけについて
4. 道の駅事業の考え方について
5. 道の駅アリストぬまくまの現状
6. 参加者による意見交換
7. 閉会宣言

1. 参加者による挨拶（自己紹介）

1. 参加者による挨拶（自己紹介）



**福井工業大学 工学部
教授 下川 勇 様**

1. 参加者による挨拶（自己紹介）



参加者の皆様

1. 参加者による挨拶（自己紹介）

■ 船井総合研究所とは

当社は東京本社を置く経営コンサルティング会社です。コンサルティングファームとして世界で初めて上場（現在は親会社の当社ホールディングスが東証プライム上場）したことで知られております。中小企業を主要顧客としておりますが、近年は地方創生分野に力を入れております。

「お客様の業績を向上させること」を最重要テーマとし、現場の活性化支援に強みを持ち、独自の経営理論（フナイ理論）に基づくコンサルティングを行っております。また、社会的価値の高い「サステナブルな成長」を多く創造することをミッションとし、企業の本質的な「あり方」にも深く関与した支援を実施しております。現場に密着した実践的コンサルティング活動は様々な業種・業界から高い評価を得ており、グループ1,200人を超えるスペシャリストが累計4万社以上へのサポートにあたっております。

- ①会社名 株式会社船井総合研究所
- ②所在地 東京都千代田区・大阪府大阪市
- ③代表者名 眞貝 大介
- ④設立年月日 1970年3月6日
- ⑤資本金 3,000,000千円
- ⑥売上高 28,813,000千円（グループ）
- ⑦従業員数 881名（2023年12月）（単独）
- ⑧事業内容 経営コンサルティング事業等



東京本社ビル



大阪本社ビル

【人材育成 分野】

人材育成における研修、講演、全体研修、視察研修、事務局運営ほか

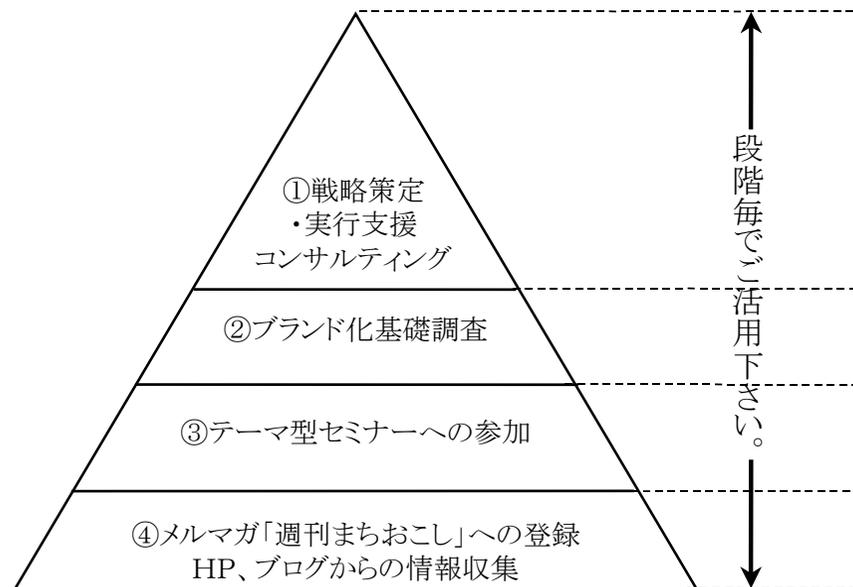
【調査分析 分野】

マーケティング調査、外部環境分析（5フォース分析、PEST分析、市場動向調査）、内部環境分析（財務分析、売上分析、PEST分析、3C分析、4P分析、覆面調査、SWOT分析、STP分析、ヒアリング分析、顧客満足度調査ほか

【コンサルティング提案 分野】

営業力強化提案、販促力強化提案、商品力提案、各種営業ツール類提案、管理帳票類提案、サービス力強化提案、チラシ、DM、広告提案 ほか

■ 船井総合研究所の活用方法



		特徴	料金
①	戦略策定・実行支援 コンサルティング	自治体のご要望に応じて 完全個別対応	個別対応
②	基礎調査の実施	自治体、企業と共同で 行うブランディング基礎調査	100万円前後
③	テーマ型セミナーへの参加	一方的講演形式 (今回のセミナーはこれに当てはまります)	1回2～3万円
④	メルマガ「週刊まちおこし」 HP、ブログからの情報収集	インターネット情報会員 無料登録	無料

1. 参加者による挨拶（自己紹介）

船井総合研究所の参加メンバー



株式会社 船井総合研究所
サービスビジネス支援本部 地方創生支援部
パブリックセクターグループ
シニアコンサルタント 伊藤 順（いとう じゅん）
（コンサルティング経験14年）

筑波大学第二学群人間学類教育学主専攻卒業。卒業後株式公開支援コンサルティング会社と有機栽培農家を経験する。前職のコンサルティング会社では約12年所属し、農林水産省や中小企業庁をはじめとした官公庁、都道府県、市町村、中間支援団体等300以上の組織や団体へ地方創生支援を実施。2016年9月からは同社の代表取締役副社長に就任し、会社経営も行う。2022年6月船井総合研究所に入社。



株式会社 船井総合研究所
サービスビジネス支援本部 地方創生支援部
パブリックセクターグループ
アソシエイト 富樫 優斗（とがし ゆうと）
（コンサルティング経験3年）

新卒で2023年に入社。以降、官公庁・地方自治体案件に携わる。現在は、道の駅のリニューアルや未利用地の活用等の業務を通じて「挑戦できる地域づくり」の実現に奔走している。

【主な職位】

- 総務省 地域力創造アドバイザー（令和5年 認定）
- 農林水産省 農山漁村発イノベーションエグゼクティブプランナー（令和4年度～）

【主な実績】

- 消費者庁 令和5年度 地方消費者行政に関する先進的モデル事業
- 内閣官房 令和4年度 地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進のあり方に関する調査研究
- 農林水産省 令和4年度 円滑な価格転嫁に向けた消費者理解醸成対策委託事業のうち調査事業
- 青森県 大鰐町「山村活性化対策事業」

【主な実績】

- 消費者庁 令和4年度 消費生活協力員・消費生活協力団体養成事業
- 経済産業省 令和5年度重要技術管理体制強化事業(中小企業等アウトリーチ事業)
- 和歌山県H市 シティプロモーション計画策定支援業務
- 島根県庁「スモールビジネス育成支援事業」
- 福岡県A町 「No1プロジェクト」
- 茨城県N市「道の駅的施設に関する提言作成業務」
- 福島県N市 道の駅にしお岡山機能診断業務
- シティプロモーション自治体等連絡協議会セミナー事務局 他

その他実績多数

2. 懇談会の目的と位置づけについて

2. 懇談会の目的と位置づけについて

懇談会の目的

1

道の駅アリストぬまくまを、福山市の活性化に資する拠点とするため、**再整備の実施**に向け、**今後の方向性**について専門的な見地から意見を聴取する

2

その他、道の駅の**再整備**に関して**必要な事**を懇談会参加者で意見交換する



建設的な意見の集約を行うことを目的と致します

2. 懇談会の目的と位置づけについて

➤ 道の駅アリストぬまくま あり方懇談会 の概要は下記のとおりです。



道の駅アリストぬまくま あり方懇談会

名称	道の駅アリストぬまくま あり方懇談会
目的	道の駅アリストぬまくま（以下「道の駅」という。）を、本市の活性化に資する拠点とするため、再整備の実施に向け、道の駅の今後の方向性について専門的な見地から意見を聴取することを目的とした、道の駅アリストぬまくまあり方懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。
内容	<p>(1) 道の駅の今後のあり方に関する事項</p> <p>(2) その他道の駅の再整備に関して必要な事項</p>
参加者	<p>1 懇談会は、委員15人以内で組織する。</p> <p>2 委員は、次に掲げる者で構成する。</p> <p>(1) 関係団体に所属する者</p> <p>(2) 金融機関に所属する者</p> <p>(3) 行政機関の者</p> <p>(4) 学識経験を有する者</p> <p>(5) その他市長が必要と認めたる者</p> <p>3 市長は、前項に掲げる者のほか必要に応じオブザーバーを置くことができる。</p>
実施期間 (今年度)	令和6年7月～令和7年3月 計5回開催

道の駅アリストぬまくまあり方懇談会 委員名簿

関係団体	福山市農業協同組合	代表理事専務	藤田 正之
	千年漁業協同組合	代表理事組合長	占部 勝巳
	沼隈内海商工会	会長	藤原 勝彦
	福山市経済環境局経済部	農林水産振興担当部長	卜部 光央
	有限会社アリストぬまくま	代表取締役社長	西迫 豪志
金融機関	株式会社広島銀行	東部統括本部長	田中 博志
	株式会社中国銀行	備後広島地区本部長	伊藤 泰三
行政機関	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務所副所長 (道路担当)	小田 嘉幸
	広島県	東部建設事務所管理課長	池上 由美子
	福山市	建設局参事	井上 真一
学識経験	福井工業大学	工学部教授	下川 勇
	福山市立大学	都市経営学部准教授	辻 紳一
その他	福山商工会議所	専務理事	小林 仁志
	福山観光コンベンション協会	専務理事	上田 英夫
	広島県東部観光推進協議会	会長	加川 倫崇

2024.7.1現在

【オブザーバー】

所属等	名前
企画財政局 企画政策部 地域活性化担当部長	神原 明子
経済環境局 文化観光振興部長	岩本 信一郎
市民局 まちづくり推進部 南部地域担当部長	鈴木 裕

【事務局】

所属等	名前
経済環境局 経済部 農林水産課長	林 茂晃
経済環境局 経済部 農林水産課企画担当次長	徳永 嘉則
経済環境局 経済部 農林水産課	西田 昇

2. 懇談会の目的と位置づけについて

➤ 今年度の懇談会の方向性・内容・スケジュールの概要は以下の通りです。

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
7月10日	8月下旬	10月	12月	2月
道の駅アリスト ぬまくまの 現状 について 意見交換	道の駅アリスト ぬまくまの 今後の方向性 について意見交換	道の駅アリスト ぬまくまの コンセプト に ついて意見交換	道の駅アリスト ぬまくまの 機能 について 意見交換	これまでの懇談会 内容の 振り返り と 次年度検討事項 について意見交換



**第1回懇談会では、道の駅アリストぬまくまの
現状について広く意見交換を行います**

2. 懇談会の目的と位置づけについて

- 第1回懇談会で意見交換をして頂きたい内容は、以下の通りです。

第1回

目的

- ・道の駅アリストぬまくまの現状について意見交換を実施

目標

- ・懇談会参加者における、懇談会設置の背景、趣旨の理解
- ・活発な意見交換による、多様な意見の集約

懇談会 実施事項

- ・懇談会設置背景、全体スケジュールの確認
- ・道の駅事業の考え方の確認
- ・道の駅アリストぬまくまの現状について、基礎調査結果の一部共有
- ・7月4日に実施したワークショップ結果の報告
- ・意見交換の実施

意見交換 実施方法

- ・下川教授にリード頂き、また辻准教授にもサポート頂く
- ・建設的な意見交換のため、懇談会参加者全員にご発言頂く
- ・意見交換の内容はホワイトボードに速記で取りまとめ、詳細記録は後日整理し共有する



2. 懇談会の目的と位置づけについて



➤ 第2回以降の懇談会で意見交換をして頂きたい内容は、以下の通りです。

第2回

目的

・道の駅アリストぬまくまの今後の方向性について意見交換

目標

・懇談会参加者における、今後の方向性の理解深化
・活発な意見交換による、多様な意見の集約

事務局の実施事項

・基礎調査結果の報告
・事業者ヒアリング結果の報告
・市民アンケート結果の報告
・意見交換の実施

意見交換実施方法

・下川教授にリード頂き、また辻准教授にもサポート頂く
・建設的な意見交換のため、懇談会参加者全員にご発言頂く
・意見交換の内容はホワイトボードに速記で取りまとめ、詳細記録は後日整理し共有する

第3回

目的

・道の駅アリストぬまくまのコンセプトについて意見交換

目標

・懇談会参加者における、コンセプトの理解深化
・活発な意見交換による、多様な意見の集約

事務局の実施事項

・リニューアルコンセプト案について提示
・全国の道の駅リニューアル事例について報告
・意見交換の実施

意見交換実施方法

・下川教授にリード頂き、また辻准教授にもサポート頂く
・建設的な意見交換のため、懇談会参加者全員にご発言頂く
・意見交換の内容はホワイトボードに速記で取りまとめ、詳細記録は後日整理し共有する

2. 懇談会の目的と位置づけについて



- 第2回以降の懇談会で意見交換をして頂きたい内容は、以下の通りです。

第4回

目的

・道の駅アリストぬまくまの機能について意見交換

目標

- ・懇談会参加者における、機能についての理解深化
- ・活発な意見交換による、多様な意見の集約

事務局の 実施事項

- ・コンセプトに基づく必要な機能の検討
- ・全国の道の駅の機能事例について報告
- ・意見交換の実施

意見交換 実施方法

- ・下川教授にリード頂き、また辻准教授にもサポート頂く
- ・建設的な意見交換のため、懇談会参加者全員にご発言頂く
- ・意見交換の内容はホワイトボードに速記で取りまとめ、詳細記録は後日整理し共有する

第5回

目的

・第1回～第4回懇談会の検討事項の振り返り

目標

- ・懇談会参加者における、これまでの意見交換内容の振り返りと確認
- ・その上で、抜け漏れのないよう意見交換と意見の集約

事務局の 実施事項

- ・これまでの意見交換検討事項の振り返りと整理
- ・抜け漏れのないよう、さらなる意見交換の実施

意見交換 実施方法

- ・下川教授にリード頂き、また辻准教授にもサポート頂く
- ・建設的な意見交換のため、懇談会参加者全員にご発言頂く
- ・意見交換の内容はホワイトボードに速記で取りまとめ、詳細記録は後日整理し共有する

3. 道の駅事業の考え方について

3. 道の駅事業の考え方について

(1) 道の駅とは何か？

- 道の駅は、「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」を併せ持つ施設（道の駅 第1ステージと呼ぶ）として、1990年代前半に設置がスタートしました。
- 特に地方創生の流れの中で、地域を発展させる拠点として注目を集め各地で整備が進みました。



道の駅 シンボルマーク
木と駐車場、道路、建物と人（インフォメーションの意味も）により「道」をイメージ。
国土交通省にて商標登録。

道の駅 第1ステージ

道の駅が持つ機能



道路・地域情報発信施設など

- 人・歴史・文化・風景・産物等の地域に関する情報を提供する場
- 道路利用者の円滑な流れを支えるための道路情報の提供の場

情報発信

地域とともに作る
個性豊かなにぎわいの場

駐車場・トイレなど

- 道路利用者がいつでも自由に休憩し、清潔なトイレを利用できる快適な休憩施設

休憩

農水産物直売所・飲食施設など

- 地域内及び地域間連携を行うことで、活力ある地域づくりが促進される機能

地域連携

3. 道の駅事業の考え方について

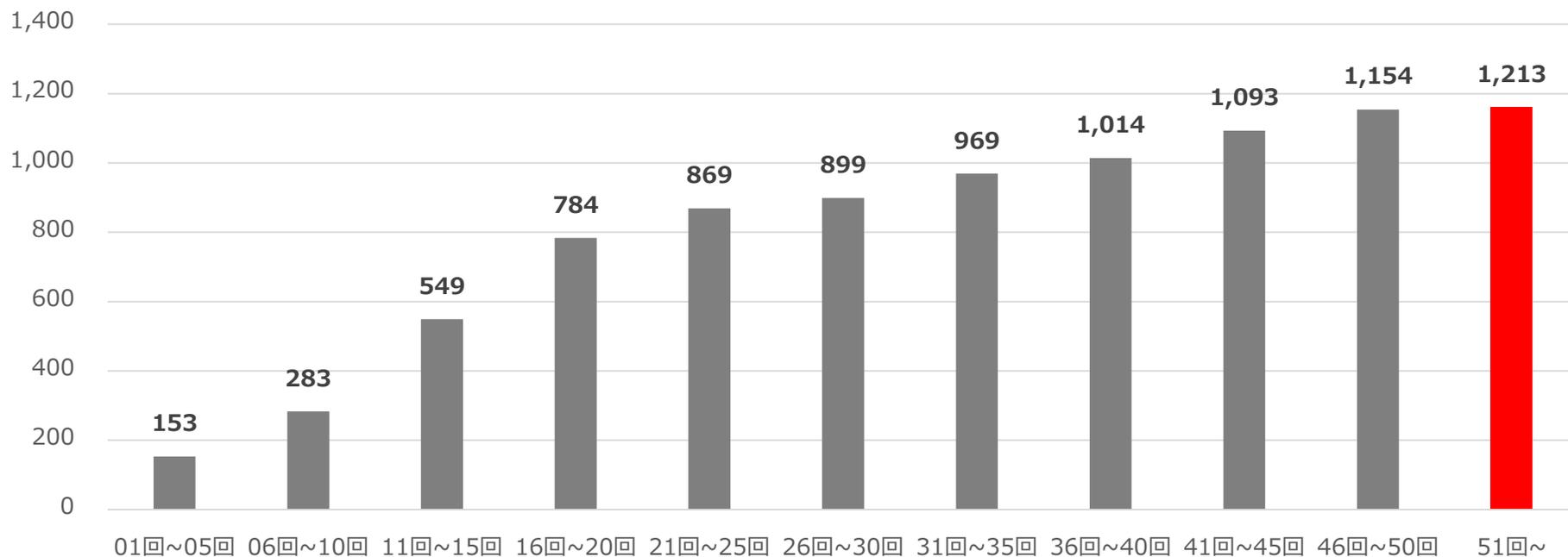
(1) 道の駅とは何か？

- 道の駅の総数は合計で1,213駅となっています。
- 同数値は今後も伸び続けるものと予測されており、その数は1500に達すると予測されています。



道の駅 シンボルマーク
木と駐車場、道路、建物と人（インフォメーションの意味も）により「道」をイメージ。
国土交通省にて商標登録。

認定基準別 道の駅累計設置数



No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
認定回数	01回~05回	06回~10回	11回~15回	16回~20回	21回~25回	26回~30回	31回~35回	36回~40回	41回~45回	46回~50回	51回~	
施設数	153	130	266	235	85	30	70	45	79	61	59	1,213
累計数	153	283	549	784	869	899	969	1,014	1,093	1,154	1,213	-

3. 道の駅事業の考え方について (1) 道の駅とは何か？

- 道の駅の発展とともに、施設の役割、規模は拡大傾向にあり、現在求められている道の駅の機能は従来はなかった、移住や防災といった新しいテーマも加わり、そのバージョンは第1ステージから第2ステージへ進化を遂げたといえます。
- しかし、第2ステージで求められる充実した機能を支えるために、その土台となる安定した「自立経営の視点」は必須となりました。

道の駅 第2ステージ

道の駅の機能は拡大

観光×移住×特産品×拠点×防災

それらを支える

自立経営の視点

- **観光**で人を呼ぶ

「農業プラス観光」で人口
3700人の村に年間120万人
来訪。リピート率は約7割。

(群馬県川場村「川場田園プラザ」)



- **移住**で人を呼ぶ

毎年100名以上が「道の駅」
へ移住相談。これまで
17世帯34名が移住
(熊本県小国町「小国」)



- **特産品**で盛り上げる ～6次産業化で雇用と経済効果～

特産品を活かした加工食品の開発販
売等、約60名の雇用を創出
(愛媛県内子町「内子フレッシュパーク」)



- 「**小さな拠点**」をつくる

診療所や役場機能等、生活に必要な
機能をワンストップで提供
(京都府南丹市「美山ふれあい広場」)



- **防災力**を強化する

広域防災拠点として高度な防災機能
を発揮
(岩手県遠野市「遠野風の丘」)



道の駅 第2ステージ

自立経営する道の駅へ

3. 道の駅事業の考え方について (1) 道の駅とは何か？



- そして、道の駅は新規設置、リニューアルともに目指すは第3ステージに突入しました。
- 第3ステージでは新たな機能が求められるため、敷地、建物面積といったハード、運営組織といったソフトともに拡充が求められています。

第1ステージ
『通過する道路利用者のサービス提供の場』

第2ステージ
『道の駅自体が目的地』

これから

第3ステージ
『地方創生・観光を加速する拠点』へ
＋
ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献

各「道の駅」における自由な発想と地元の人々の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速する。更に、「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献する。

出典：国土交通省「道の駅」第3ステージ「地方創生・観光を加速する拠点へ 新「道の駅」のあり方検討会 提言資料」より

3. 道の駅事業の考え方について

(1) 道の駅とは何か？ 高まる道の駅の社会性の役割

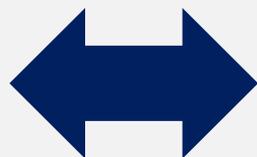
- 少子高齢化、過疎化といった地域課題の深刻化に伴い、道の駅は地域経済の拠点（経済性）としての役割だけでなく、地域課題の解決に取り組む拠点（社会性）としての役割を担うことへの期待も高まっています。

道の駅の地域拠点としての役割

経済性

雇用創造

所得向上



社会性

福祉増進

自治交流

経済性と社会性の両立が永く地域に愛され必要とされる要件になる

3. 道の駅事業の考え方について

(1) 道の駅とは何か？ 道の駅が持つ社会性の役割の重要性

- 平成28年度には、国土交通省が全国各地の「道の駅」の模範となって質的向上に寄与する“特定テーマ型モデル「道の駅」”の住民サービス部門 モデル「道の駅」を6箇所認定されています。

平成28年度 住民サービス部門 モデル「道の駅」



都道府県	市町村	設置年度	駅名	主な特長
埼玉県	おがのまち 小鹿野町	H11	りょうかみ やくし 両神温泉薬師の湯	町が「道の駅」を地域福祉の拠点として位置付け、高齢者の生きがい作りの取組を展開し、地域住民の交流の場として機能。
岐阜県	たかやま 高山市	H14	さとしょうかわ 桜の郷荘川	まちづくり協議会への積極的な参画・連携により、住民ニーズを踏まえた健康増進の取組を展開し、地域住民の交流の場として機能。
京都府	なんたん 南丹市	H17	みやま 美山ふれあい広場	住民自治組織が中心となり、行政サービスや福祉サービス等の機能・施設を連携させ、総合的な拠点を形成。
岡山県	にいみ 新見市	H9	こい ぐぼ 鯉が窪	計画から運営まで全てで住民主体を掲げ、行政窓口や診療所等を集約してワンストップサービスを実現した「小さな拠点」を形成。
香川県	しょうどしまちよう 小豆島町	H8	しょうどしま 小豆島オリーブ公園	「道の駅」を福祉施策の中核と位置付け、オリーブ販売等による収益を福祉関連施設の運営に還元することで住民サービスを実現。
宮崎県	にちなん 日南市	H11	きかたに 酒谷	「道の駅」の収益を自治組織に還元し、住民主体で「道の駅」を地域の自治・交流活動の拠点として育て、「小さな自治」を形成。

3. 道の駅事業の考え方について

(1) 道の駅とは何か？ 道の駅が持つ社会性の役割の重要性 事例

- 6箇所認定された事例のうち、香川県小豆島町の道の駅「小豆島オリーブ公園」の取組では、「オリーブ」を健康長寿に資する地域資源として活用し、経済性と社会性の両立を果たしています。

香川県小豆島町 道の駅「小豆島オリーブ公園」		平成8年 開駅
<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康で生きがいのある小豆島の創生に向けて、「道の駅」をその中核を担う拠点として位置付け。 ○ 福祉関連施設の「サン・オリーブ」では、介護予防教室や健康教室、健康に関する講演会等、地域住民の健康増進に資する様々な取組を実施。 ○ オリーブを核として「道の駅」全体であげた収益を「サン・オリーブ」の運営に還元することで、これらの健康増進の取組を維持し、継続的な住民サービスを実現。 		
 <p style="text-align: center;">香川県 小豆郡小豆島町</p> <p style="text-align: center;">道の駅 「小豆島オリーブ公園」 香川県小豆島町 人口 約14.9千人 面積 約95.6km²</p>  <p style="text-align: center;">道の駅 「小豆島オリーブ公園」</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">健康増進に資する取組の実施</div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 介護予防教室を開催、介護予防のための体操等を実施。 (月4回程度、10～15人/回が参加) ◇ 「オリーブを用いた健康長寿の島づくり」等、健康に関する講演会を開催 (年数回程度、200人程度/回が参加) <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>介護予防教室</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講演会</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 小豆島健康教室を開催、イスに座ったままできる体操等を実施。 (月3回程度、60人程度/回が参加) <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>健康教室</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 「道の駅」全体の収益を活用した住民サービス維持の仕組み </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「道の駅」では、オリーブを中心とした小豆島の特産品を取り揃え、観光客等への販売を促進。 ◇ 「道の駅」内の販売収入等を生きがい中核施設「サン・オリーブ」の運営に活用し、住民サービスを維持。 	

3. 道の駅事業の考え方について

(2) 道の駅事例：栃木県さくら市 道の駅きつれがわ

- 栃木県さくら市に位置する道の駅です。
- 「大正ロマン、大正モダン」を基本コンセプトとした施設であり、とちおとめを使用したジェラートが名物です。
- 2017年にリニューアルを行い、リニューアルにより売上を拡大させています。

施設概要

道の駅	道の駅 きつれがわ
住所	栃木県さくら市喜連川 4 1 4 5 - 1 0
開業日	開業 : 2001年10月 リニューアル : 2017年4月
運営管理者	株式会社 道の駅きつれがわ
営業時間	09 : 00 ~ 18 : 00
保有機能	直売所 / レストラン / パン / ジェラート / 惣菜 温浴 / キャンプ場 / 駐車場 / 情報発信
施設面積	延床面積 約1,160㎡
駐車場台数	普通220台 / 大型10台
売上	約7.0億円

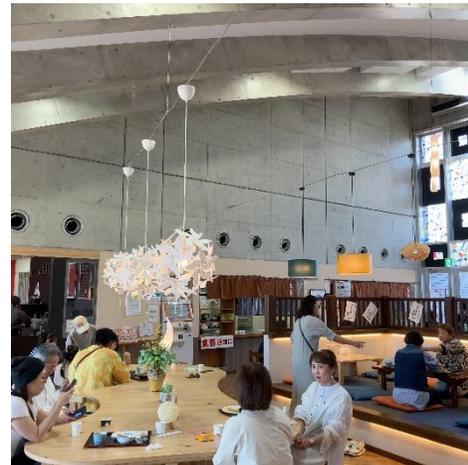
施設イメージ



3. 道の駅事業の考え方について (2) 道の駅事例：栃木県さくら市 道の駅きつれがわ

- 施設全体を基本コンセプトに合わせており、物販、飲食、温浴と様々な付帯施設が充実しています。

現在の姿



3. 道の駅事業の考え方について
(3) 道の駅事例から見る成功の3ポイント



成功の3ポイント

1. 基本コンセプトに合わせた施設づくり

→「大正モダン」のような、基本コンセプトに意識した施設、付帯施設の拡充が重要

2. 「名物」と言われる商品づくり

→その道の駅にしかない強みを活かした商品開発が来場者拡大につながる

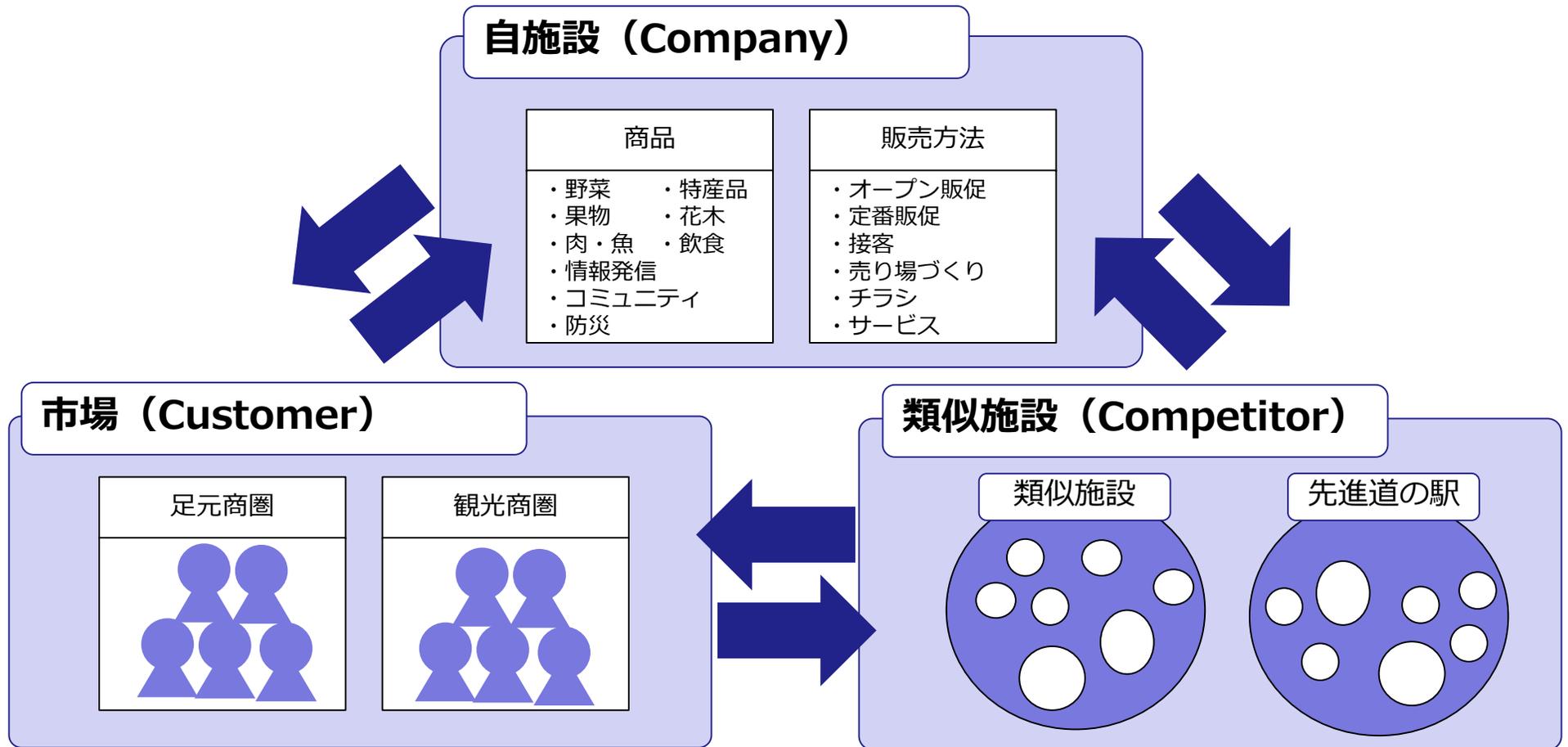
3. リピーターになってもらうファンづくり

→1回の訪問では飽き足らないように、定期的なイベントの開催や新商品販売などを打ち出す

3. 道の駅事業の考え方について

(4) 自立経営を達成する考え方

- 安定した自立経営に向けて重要な点は、計画段階からマーケティングの視点を取り入れることにあります。
- 特に新規事業である道の駅を考えるにあたっては、自社、類似施設、市場の三つの視点を重視する「3C」を取り入れ、事業計画を策定し、指定管理候補者と行政が協力して設計・運営・維持管理を行う必要があります。



4. 道の駅アリストぬまくまの現状

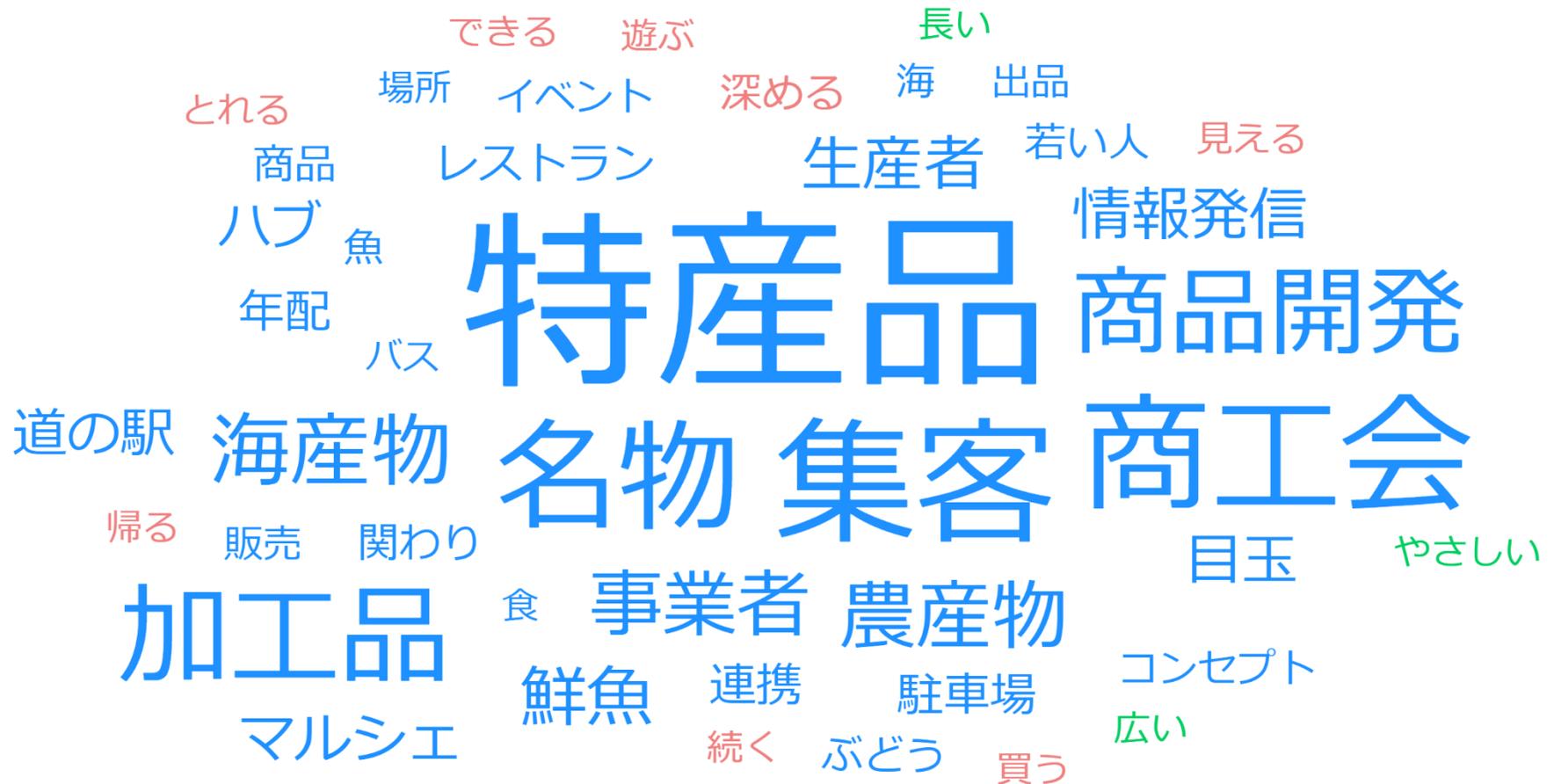
4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (1) 道の駅ワークショップ

- 7月4日（木）14:00～15:30 沼隈サンパルにて道の駅機運醸成ワークショップが実施された。
- 参加者は22名で、主に道の駅関係者、近隣事業者、地元住民が集まった。
- ワークショップでは、道の駅の考え方、道の駅アリストぬまくまの現状を説明した後、参加者全員で道の駅に対する意見を出し合い、発表を実施した。



4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (1) 道の駅ワークショップ

- ワークショップでの意見をテキストマイニングすると、以下の通りである。
- 「特産品」を中心に、商品開発や加工品など、主にソフト面の取組についての意見が多く抽出された。
- 一部、駐車場や場所といったハード面に対する意見も抽出され、両面に対しての取組が必要になっている。



4. 道の駅アリストぬまくまの現状

(1) 道の駅ワークショップ

- ワークショップでの意見をハード・ソフトのインフラで大別すると以下のような意見に集約される。
- ハードにおいては、駐車場という喫緊の課題に加え、「海」の問題がクローズアップされている。
- ソフトにおいては、商品開発、集客、連携、情報発信と、収益性、社会性の両面からの要望が多くみられる。

ハードインフラ キーワード

- 駐車場 ⇒ 駐車場の台数が少ない、土日などに満車になる
- 海 ⇒ 最大の魅力「海」をPRしたい、立地も検討すべき
- ハブ ⇒ 交通の結節点、地域の結節点にしたい
- バス ⇒ 公共交通の乗り入れ、観光バスの立ち寄りを期待したい

ソフトインフラ キーワード

- 特産品・名物 ⇒ ここにしかないオリジナルの名物、商品を開発したい
- 集客・イベント ⇒ 地域内外の人が立ち寄りたくなるような仕組み、イベント
- 連携 ⇒ 商工会、漁協、農協、さらに地域との連携が重要
- 情報発信 ⇒ 道の駅の情報発信を様々な媒体でおこないたい

4. 道の駅アリストぬまくまの現状

(2) 趣旨説明 道の駅アリストぬまくまのこれまで



変化1. 靱未来トンネル完成

トンネルの開通で地域間の交通の利便性が向上。
道の駅アリストぬまくまの観光拠点としての重要性の増大！

変化2. 建物リニューアルの必要性

施設の老朽化が進み、リニューアルの時期が到来！
分棟か、一棟か、様々な可能性を検証！

変化3. 継続する人口減少

今後も人口減少が継続する可能性大。
地域に即したリニューアルが必要！

4. 道の駅アリストぬまくまの現状

(2) 趣旨説明 道の駅アリストぬまくまのこれまで



- 道の駅アリストぬまくまは広島県福山市の県道47号線に位置する道の駅である。
- 平成7年に設置しており、道の駅制度が始まってから初期段階の道の駅といえる。
- 鮮魚販売、ハーブガーデンが特色であり、中でも漁協と連携した鮮魚販売が道の駅アリストぬまくまの強みになっている。

No.	項目	概要	
1	名称	道の駅アリストぬまくま	
2	住所	〒720-0313 広島県福山市沼隈町 1 7 9 6	
3	機能	物販	○
		飲食	○
		公園	×
		BBQ	×
		博物館施設	×
4	受託者	有限会社アリストぬまくま	
5	駐車場台数	普通車:62台、大型: 2 台、身障者用:3台	
6	登録年月	平成7年8月3日	
7	道路名称	県道47号線	
8	タイプ	地元密着・足元商圈型	
9	売上	約2.7億円（2023年度実績）	

開発経緯
<p>広島県 福山市に位置する道の駅。</p> <p>平成7年8月に登録された道の駅であり、道の駅としては28年間の歴史がある。設置当初は、トイレ、休憩、情報発信機能の他、飲食施設、ハーブガーデンを持ち合わせていた。時代の経過と共に物販、ベーカリーなど様々な機能が追加された。施設全体の老朽化等により、現在は再整備が検討されている。</p>

道の駅の特徴
<p>商圈人口から見ると、車30分圏には約13万人の商圈人口を有している。商圈規模はやや小規模なものの、再整備や鞆未来トンネルの開通等の状況変化によりポテンシャルの拡大が期待できる。</p> <p>地域に密着した道の駅であり、観光客の立ち寄りではなく、地元住民の利用が多いことが特徴である。施設としてはハーブガーデンを有しており、他の道の駅にないような特徴となっている。</p>

4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (3) 道の駅を取り巻く状況と今後の方向

- 現在、道の駅アリストぬまくまは施設の老朽化や靱未来トンネル開通等の影響を鑑みて、再整備を検討している段階である。
- 福山市が提示する福山みらい創造ビジョンや農林水産振興ビジョンに沿うように道の駅を通じて、地域拠点としてさらなる発展するよう計画している。
- 現在は再整備に係る調査段階であり、本年度の調査結果を踏まえて再整備の計画策定及び再整備と進行していく。

道の駅を取り巻く環境

内部

- ・施設老朽化
- ・「靱未来トンネル」開通
- ・地域の関心の増大

- ⇒ **改修機会の到来**
- ⇒ **需要増大の可能性**
- ⇒ **地域ビジネスの創造**

福山みらい創造ビジョン



外部

- ・道の駅「第3ステージ化」
- ・南部地域拠点への期待
- ・農山漁村地域の活性化

- ⇒ **機能付加の必要性**
- ⇒ **市ビジョンと連動**
- ⇒ **先進事例の可能性**

農林水産振興ビジョン



R6年度：
道の駅アリスト
ぬまくまの
再整備検討に
係る調査等業務

R7年度：
再整備
基本計画 策定

R8年度以降：
再整備へ

4. 道の駅アリストぬまの現状

(3) 道の駅を取り巻く状況と今後の方向 鞆未来トンネル

- 鞆未来トンネルは福山駅方面の県道22号線側を東側、鞆の浦エリア方面の県道47号線側を西側とした全長約2,1kmのトンネルである。
- 鞆未来トンネルの開通により、鞆の浦エリアの課題であった1車線による交通混雑の解消および観光客の流入増加が見込まれている。



4. 道の駅アリストぬまくまの現状

(3) 道の駅を取り巻く状況と今後の方向 鞆未来トンネル

- 建設状況として、6月28日（金）に貫通し、現在は内部舗装等の施工に着手する段階である。
- トンネル竣工は2025年3月末を目途となっている。



4. 道の駅アリストぬまの現状

(3) 道の駅を取り巻く状況と今後の方向 鞆地区東西交通・交流拠点事業

- ▶ 鞆の浦エリアにて、埋め立て地によるパークアイランド拠点設置事業が進行している。
- ▶ パークアイランドは交通渋滞の解消を目的とし、駐車場・渡船場・物販飲食等の旅客ターミナル施設の整備を検討している。
- ▶ 現在は事業者選定、設計段階であり、R8年度より建設工事着工予定である。



拠点	整備施設
東側拠点	旅客ターミナル施設(物販飲食等)、駐車場、棧橋、広場等
西側拠点	待合所、トイレ、棧橋等

【整備予定機能】

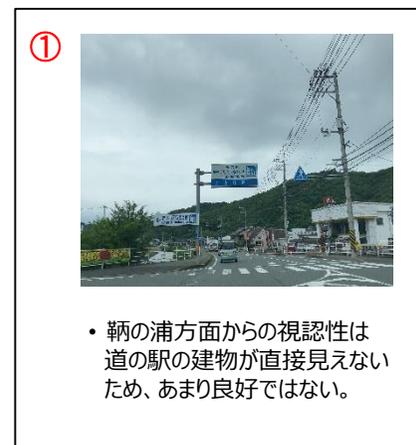
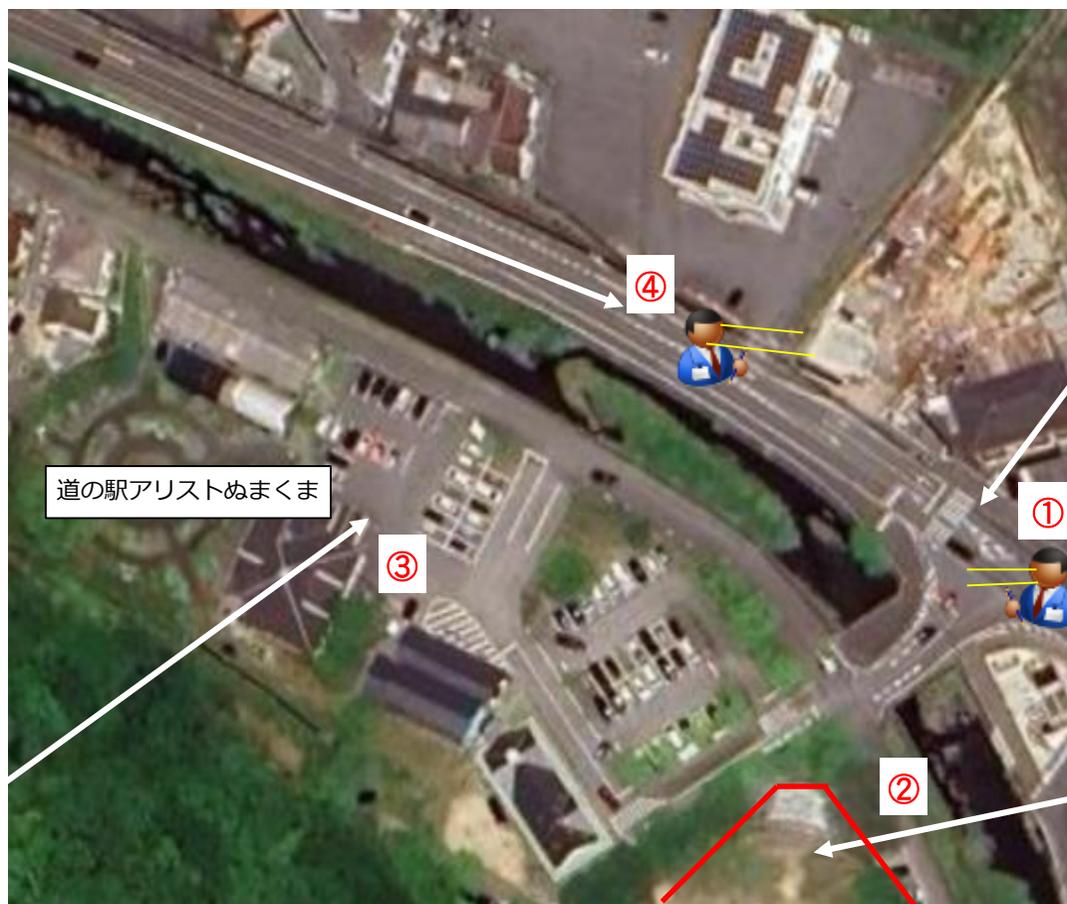


【就航中の渡船】

事業対象地とパークアンドライドのイメージ

4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (3) 立地診断

- 鞆の浦方面からの視認性は道の駅の建物が直接見えないためあまり良好ではない。(①)
- 福山市方面からの視認性も建物が直接見えないためあまり良好ではない。(④)
- リニューアル時には道の駅南側のスペースも活かし、駐車場台数の増設、施設の一括化が望まれる。(②・③)



4. 道の駅アリストぬまくまの現状

(3) 立地診断

- 交通量は24時間自動車類交通量上下合計で10,862台となり、交通量自体は現状でも十分であると考えられる。
(一般の道の駅では、10,000台以上が必要台数の目安となる。)
- 自家用車比率（小型比率）は90.2%であり、道路利用者の多くが、地元の日常使いであると推測される。
- 車速については、混雑時でも最大31.7Km/時であり、道の駅を看板を視認するために十分な時間があると判断される。
- 韮松永線の交通量に関するデータ

■ 診断地周辺 交通量データ

No.	項目	昼間12時間自動車類交通量 上下合計			24時間自動車類交通量 上下合計		
		小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
1	韮松永線	8,118	642	8,760	9,802	1,060	10,862

12時間小型比率	24時間小型比率
92.7%	90.2%

小型昼夜比率	大型昼夜比率
120.7%	165.1%

■ 診断地周辺 車速データ

No.	項目	混雑時		昼間非混雑時	
		上り	下り	上り	下り
1	韮松永線	26.4	30.0	30.6	31.7

出典:国土交通省「令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査」より抜粋・加工

4. 道の駅アリストぬまくまの現状

(3) 立地診断

- ▶ 店頭通行車両台数は10,862台となっており、現状でも十分な通行量がある。
- ▶ リニューアルに向けては、より多くの利用者を獲得するために、駐車場の増大、施設の一括化等が望まれる。
- ▶ そのためには、道の駅南側のイベントスペースの活用を検討すると良い。

▶ 立地評価

評価項目		評価視点	本立地の評価
流動導線	1	店頭通行車両台数 車の通行量が適度に多いか ⇒ ■一般の道の駅では10,000台以上が必要な台数 診断結果：交通量10,862台	○
	2	自家用車比率 自家用車通行量が全体の60%以上を占める ⇒ ■トラックの通行量が少ない生活道路が好ましい 診断結果：24時間小型比率90.2%	○
	3	平均車速度 平均車速が速い道路やエリアは自動車客が止まりにくく、物件を視認しにくい ■○=平均速度30km/時以下、×=平均速度50km/時以上 診断結果：平均車速26.4~31.7Km	○
物件条件	4	駐車場能力 駐車場保有台数が100台以上確保できるか 診断結果：現状67台	△
	5	信号機までの距離 信号機までの距離が80m以上離れている ■信号機付近は車が渋滞しやすいため、物件への進入や道路への復帰時間がかかり、結果として物件の利用率にも影響を与える可能性がある。診断結果：信号機とは80m以上離れている	○
	6	カーブ視認性 直線道路及びアウトカーブに立地している ■インカーブ沿いでは物件が視認されにくい 診断結果:インカーブ沿い	×
	7	物件前視認性 150m手前から視認できる ■離れた距離から物件が視認できるかどうかを実走調査にて実施 診断結果：道路から直接視認することは難しいため「×」の評価	×
	8	将来拡張性 将来的に周辺に開発可能な土地が存在するか否か 診断結果：道の駅南側のイベントスペースが活用できるため「○」の評価	○
周辺環境	9	対向進入容易性 片側2車線未満、中央分離帯がないか ■○=片側2車線未満、△=片側2車線以上、×=中央分離帯あり 診断結果：片側2車線未満	○
	10	物件周辺イメージ 物件周辺が業態イメージとマッチングしているか ■「自然」「森」「海」等をキーワードに検証 診断結果：周辺は自然・森に囲まれており、イメージとマッチングするため「○」の評価	○

総合評価 (○ = 2点、△ = 1点、× = 0点で換算し、15点以上で○、10点以上15点未満で△、10点未満は×) 15点

○

4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (4) 商圈分析

- 道の駅アリストぬまくまの商圈は大きく分けて3分類される。
- 第一の商圈は、道の駅から車で10分の足元商圈1である。同商圈では日常使いが想定される。
- 第二の商圈は、道の駅車で20分の足元商圈2である。同商圈では足元商圈1同様、日常使いが想定される。
- 第三の商圈は、近隣観光商圈(車30分商圈)である。同商圈では週末利用など週に1回程度の利用が想定される。



足元商圈1： 車10分圏

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で10分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

足元商圈2： 車20分圏

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で20分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

近隣観光商圈： 車30分圏

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で30分以内に到達できるエリア。
(例) 平日や休日の利用する客が混在する。

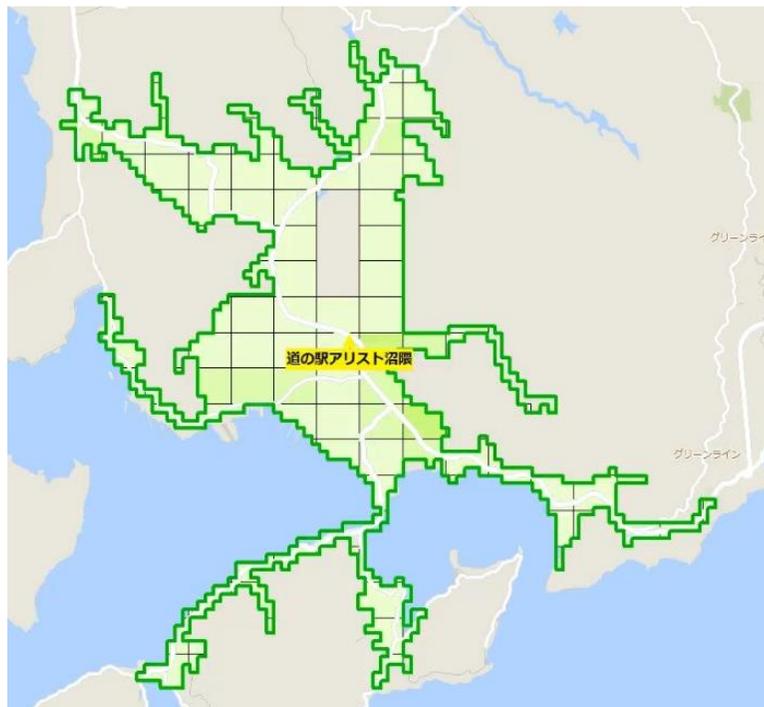
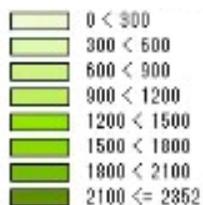
4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (4) 商圈分析

- 車で10分移動に含まれる人口は6,963人となっている。
- 年齢別人口構成比をみると15~64歳が53.0%で1番多くなっている。
- 年収別の構成比においては、購買力の高い年収500万以上の世帯数が約41.7%と3商圈中最も多くなる。

足元商圈1： 車10分商圈

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で10分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

メッシュ別人口



	車10分商圈	車10分商圈
人口総数	6,963	100.0%
男性人口	3,581	51.4%
女性人口	3,382	48.6%
世帯数	2,946	-
■ 商圈別 年齢別人口データ		
人口 (15歳未満)	749	10.8%
人口 (15-64歳)	3,691	53.0%
人口 (65歳以上)	2,523	36.2%
■ 商圈別 年収別世帯数データ		
年収-200万未満 世帯数	204	6.9%
年収200-300万未満 世帯数	574	19.5%
年収300-400万未満 世帯数	480	16.3%
年収400-500万未満 世帯数	457	15.5%
年収500-700万未満 世帯数	584	19.8%
年収700-1000万未満 世帯数	463	15.7%
年収1000-1500万未満 世帯数	139	4.7%
年収1500万以上 世帯数	45	1.5%

※総務省「2020年度 国勢調査数値」より抽出・加工

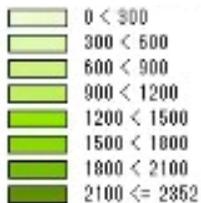
4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (4) 商圈分析

- 車で20分移動に含まれる人口は27,436人となっており、「鞆の浦地区」も範囲内となる。
- 年齢別人口構成比をみると15~64歳が51.8%で1番多くなっている。
- 年収別の構成比においては、購買力の高い年収500万以上の世帯数が約36.6%と3商圈中2番目に多くなる。

足元商圈2： 車20分商圈

- ・ 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で20分以内に到達できるエリア。
(例) 日用品を買いに来る客をターゲットとする。

メッシュ別人口



	車20分商圈	車20分商圈
人口総数	27,436	100.0%
男性人口	13,606	49.6%
女性人口	13,831	50.4%
世帯数	11,464	—
■ 商圈別 年齢別人口データ		
人口 (15歳未満)	2,890	10.5%
人口 (15-64歳)	14,203	51.8%
人口 (65歳以上)	10,343	37.7%
■ 商圈別 年収別世帯数データ		
年収-200万未満 世帯数	1,670	14.6%
年収200-300万未満 世帯数	2,094	18.3%
年収300-400万未満 世帯数	1,859	16.2%
年収400-500万未満 世帯数	1,635	14.3%
年収500-700万未満 世帯数	2,092	18.2%
年収700-1000万未満 世帯数	1,444	12.6%
年収1000-1500万未満 世帯数	507	4.4%
年収1500万以上 世帯数	163	1.4%

※総務省「2020年度 国勢調査数値」より抽出・加工

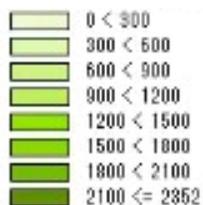
4. 道の駅アリストぬまくまの現状 (4) 商圈分析

- ▶ 車で30分移動に含まれる人口は131,010人となっており、福山市の中心部も範囲内となる。
- ▶ 年齢別人口構成比をみると15~64歳が56.5%で1番多くなっている。
- ▶ 年収別の構成比においては、購買力の高い年収500万以上の世帯数が約33.6%と3商圈中最も少なくなる。

近隣観光商圈： 車30分商圈

- 道の駅アリストぬまくまをスタート地点として、車で30分以内に到達できるエリア。
(例) 平日や休日の利用する客が混在する。

メッシュ別人口



	車30分商圈	車30分商圈
人口総数	131,010	100.0%
男性人口	63,903	48.8%
女性人口	67,107	51.2%
世帯数	56,607	-
■ 商圈別 年齢別人口データ		
人口 (15歳未満)	16,550	12.6%
人口 (15-64歳)	73,994	56.5%
人口 (65歳以上)	40,466	30.9%
■ 商圈別 年収別世帯数データ		
年収-200万未満 世帯数	9,684	17.1%
年収200-300万未満 世帯数	10,482	18.5%
年収300-400万未満 世帯数	9,476	16.7%
年収400-500万未満 世帯数	7,970	14.1%
年収500-700万未満 世帯数	9,919	17.5%
年収700-1000万未満 世帯数	6,168	10.9%
年収1000-1500万未満 世帯数	2,245	4.0%
年収1500万以上 世帯数	663	1.2%

※総務省「2020年度 国勢調査数値」より抽出・加工

4. 道の駅アリストぬまくまの現状

(4) 商圈分析

- 10分～30分商圈の基礎データをまとめると下記の通りとなる。
- 10分商圈の人口6,963人に対して、30分商圈まで広めると131,010人にまで人口が増加し、福山市の中心部も含まれる。
- 商圈自体の厚みは一般的な道の駅と同程度であり、足元商圈がメインの利用者となる。一方で、今後は「鞆未来トンネル」の開通に伴い、「鞆の浦」等に訪れた南部地域の近隣～遠方の観光客を取り込み、更なる需要拡大を目指したい。

	車10分商圈	車20分商圈	車30分商圈	車10分商圈	車20分商圈	車30分商圈
人口総数	6,963	27,436	131,010	100.0%	100.0%	100.0%
男性人口	3,581	13,606	63,903	51.4%	49.6%	48.8%
女性人口	3,382	13,831	67,107	48.6%	50.4%	51.2%
世帯数	2,946	11,464	56,607	—	—	—
■ 商圈別 年齢別人口データ						
人口 (15歳未満)	749	2,890	16,550	10.8%	10.5%	12.6%
人口 (15-64歳)	3,691	14,203	73,994	53.0%	51.8%	56.5%
人口 (65歳以上)	2,523	10,343	40,466	36.2%	37.7%	30.9%
■ 商圈別 年収別世帯数データ						
年収-200万未満 世帯数	204	1,670	9,684	6.9%	14.6%	17.1%
年収200-300万未満 世帯数	574	2,094	10,482	19.5%	18.3%	18.5%
年収300-400万未満 世帯数	480	1,859	9,476	16.3%	16.2%	16.7%
年収400-500万未満 世帯数	457	1,635	7,970	15.5%	14.3%	14.1%
年収500-700万未満 世帯数	584	2,092	9,919	19.8%	18.2%	17.5%
年収700-1000万未満 世帯数	463	1,444	6,168	15.7%	12.6%	10.9%
年収1000-1500万未満 世帯数	139	507	2,245	4.7%	4.4%	4.0%
年収1500万以上 世帯数	45	163	663	1.5%	1.4%	1.2%

※総務省「2020年度 国勢調査数値」より抽出・加工

5. 参加者による意見交換

5. 参加者による意見交換

①個人ワーク（5分）

- ・道の駅への現状所感(良い点、改善点)
- ・より良い道の駅に向けたアイデア（経済性・社会性）

②皆さんより発表、コメント（30分）

ファシリテーターが調整致しますので、自由にご発言ください。

5. 参加者による意見交換

①道の駅への現状所感(良い点、改善点)

②より良い道の駅に向けたアイデア
【経済性】

②より良い道の駅に向けたアイデア
【社会性】

道の駅アリストぬまくまあり方懇談会 委員名簿

関係団体	福山市農業協同組合	代表理事専務	藤田 正之
	千年漁業協同組合	代表理事組合長	占部 勝巳
	沼隈内海商工会	会長	藤原 勝彦
	福山市経済環境局経済部	農林水産振興担当部長	卜部 光央
	有限会社アリストぬまくま	代表取締役社長	西迫 豪志
金融機関	株式会社広島銀行	東部統括本部長	田中 博志
	株式会社中国銀行	備後広島地区本部長	伊藤 泰三
行政機関	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務所副所長 (道路担当)	小田 嘉幸
	広島県	東部建設事務所管理課長	池上 由美子
	福山市	建設局参事	井上 真一
学識経験	福井工業大学	工学部教授	下川 勇
	福山市立大学	都市経営学部准教授	辻 紳一
その他	福山商工会議所	専務理事	小林 仁志
	福山観光コンベンション協会	専務理事	上田 英夫
	広島県東部観光推進協議会	会長	加川 倫崇

2024. 7. 1現在

【オブザーバー】

所属等	名前
企画財政局 企画政策部 地域活性化担当部長	神原 明子
経済環境局 文化観光振興部長	岩本 信一郎
市民局 まちづくり推進部 南部地域担当部長	鈴木 裕

【事務局】

所属等	名前
経済環境局 経済部 農林水産課長	林 茂晃
経済環境局 経済部 農林水産課企画担当次長	徳永 嘉則
経済環境局 経済部 農林水産課	西田 昇